

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2012～2014

課題番号：24243024

研究課題名(和文) 中国の台頭と東アジアにおける地域協力枠組み発展の政治過程

研究課題名(英文) China's Role in East Asian Regional Cooperation

研究代表者

田中 明彦(Tanaka, Akihiko)

東京大学・東洋文化研究所・委嘱教授

研究者番号：30163497

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,400,000円

研究成果の概要(和文)：中国の経済成長は着実に中国の対外行動に影響をあたえており、経済規模が大きくなるとともに、強硬的な失地回復的な行動と協調的行動の両者が生み出されている。強硬行動と協調行動のいずれが強くなるかは、指導者の戦略認識とともに国内政治に影響される。ASEAN+3や東アジアサミットなどの東アジアの地域協力の枠組みは成長しており、中国はこの枠組みに拘束されるとともに影響もあたえている。中国に協調的行動をとることを促す要因は数多いが、これだけやればよいという決定的なものはない。経済相互依存の深化、安全保障の安定、中国を取り込んださらなる国際的制度化などを着実に組み合わせる必要がある。

研究成果の概要(英文)：The growth of Chinese economy has affected its international behavior; as its economy grows bigger, China displays both assertive irredentist behavior as well as cooperative behavior. Which type - assertive or cooperative-- becomes dominant is influenced by its leaders' strategic visions and domestic politics. The East Asian regional frameworks such as ASEAN+3 and East Asia Summit have grown steadily; China affects their development and is constrained by their development. Though there are many factors encouraging China's cooperative behavior, no single factors are critical. It is necessary to combine such factors as economic interdependence, effective international security frameworks, and international institutions.

研究分野：東アジアの国際政治

キーワード：政治学 東アジア 国際政治 地域主義 地域協力

1. 研究開始当初の背景

1970年代後半の「改革・開放」路線の展開以降、とりわけ1990年代以降の持続的高成長の結果、中国経済の規模は、2011年には日本経済の規模を凌駕し、遠くない将来に米国経済の規模に迫ろうとしている。このような中国の台頭をうけて、ジャーナリズムや政策サークルの一部には「中国脅威論」が登場し、中国国内でも「平和的台頭」の可能性を巡って議論が巻き起こった。

他方、このような中国の台頭と時をほぼ同じくして、東アジアでは、地域協力のさまざまな動きが展開するようになってきている。アジア太平洋経済協力(APEC)、ASEAN地域フォーラム(ARF)、ASEAN+3首脳会議、東アジア首脳会議など、さまざまな地域協力の枠組みがこの地域に誕生している。「東アジア共同体」というビジョンすら語られるようになってきている。

いうまでもなく、東アジアにおけるこの二つの大きな流れは、国際政治学の注目するところとなっている。プリンストン大学のアロン・フリードバーグ教授は、1993年に冷戦後の東アジアでは「対立の機が熟している」との有名な論文を発表し("Ripe for Rivalry: Prospects for Peace in a Multipolar Asia," *International Security*, vol. 18, no.3)、2011年には、中国の台頭がもたらす政治の不安定化の可能性を論じた著書を発表した(A Contest for Supremacy)。より一般的に、中国の台頭が国際政治を不安定化させるパワー・トランジション(権力移行)該当するのではないかとの研究も数多くなされるようになってきている。

他方、東アジアの地域協力についても、さまざまな観点から学術的な研究が進められている。経済相互依存の進展との関連での研究や、国際制度論の観点での分析、さらには「ものの見方」の変化をともなう構成主義的な研究などである。コーネル大学のカツェンスタイン、カリフォルニア大学のペンベル、南カリフォルニア大学のアチャリヤなどが代表的な研究者である。

しかし、この二つの大きな流れを実証的・理論的に結びつけて論じた業績は、ほとんどない。本研究の狙いは、これまで別々に論じられることの多かった二つの動向に統合的な理解を与えようとするところである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、1990年代以降顕著になった中華人民共和国の台頭が、東アジアおよび世界の国際政治にいかなる影響を与えたか、とりわけ東アジアの地域協力にいかなる影響を与えたかを、文献資料および聞き取り資料に依拠しつつ、国際政治の理論動向と関連させつつ、全面的に分析し、今後の理論的展望を明らかにすることである。この目的を達するため、本研究では、第一に、中国の経済成長がその対外政策や安全保障政策にいか

なる影響を及ぼしているかを分析し、第二に、このような中国の台頭と時を同じくして起こっている東アジアの地域協力の動向を分析し、第三に、関係各国が中国の台頭と東アジア地域協力をどのように関連づけて政策形成をしているかを分析し、そして第四に、中国の台頭と地域協力の関係に関する国際政治の理論を検討する。

3. 研究の方法

(1) 定例研究会、スタッフミーティング

2ヶ月に一回の割合で開催

<参加者> 研究代表者、連携研究者、研究補助者

研究成果の発表、研究方法や資料収集の方針などを確認。

それぞれ分担している研究の進捗状況等の報告。

(2) 資料収集、聞き取り調査

各国の新聞や雑誌における中国の台頭の様子や東アジア地域協力に関する記事・文献を収集。

外交文書などについて情報公開によって入手可能なものを収集。

関係各国の政策担当者(指導者、閣僚、外務省や経済担当官庁の官僚等)ならびに政策に関連する有識者のリストを作成。

政策担当者・有識者リストをもとに、オーラル・ヒストリーの手法で、聞き取り調査を行う。

(3) 理論的検討

国際政治学や関連領域における地域統合ならびに集団形成、制度論、アイデンティティ論文献を収集し、理論的検討を行う。独自の理論的枠組みの可能性を探求。

役割分担

研究代表者

・田中明彦: 国際政治理論の検討と研究統括
連携研究者

・浅野亮: 中国の対外政策・安全保障政策

・平岩俊司: 朝鮮半島の国際政治・中朝関

・大庭三枝: 東アジア/アジア太平洋の地域協力

・松田康博: 中国の対外政策・安全保障政策・中台関係

・益尾知佐子: 中国の対外政策・安全保障政策

・林載桓: 中国の内政と対外政策

・毛利亜樹: 中国と東アジア諸国間の海洋問題

4. 研究成果

中国の台頭と東アジアにおける地域協力枠組み発展の政治過程を現場レベルで把握するため、本研究では、中国の台頭と東アジアの地域協力に関係する内外の専門家や実務家合計約70人から聞き取り調査をおこな

うため、3年間で合計8カ国に出張した。また、実証的な説明を研ぎすまし、理論的な検討をおこなうため、研究会を年に約10回行い、H26年12月20日には、日本国内の専門家約30人を招いてシンポジウム「中国・東アジア・世界秩序」を開催した。研究代表者および連携研究者は、これまでの研究実績に、上記の資料収集と研究活動の成果を活かし、雑誌論文24件、学会報告30件、著書(共著を含む)を32件を発表した。

本研究に関連するさまざまな個別テーマに関する結論は多岐にわたり、それらは上記の雑誌論文、学会報告、および著書で展開されている。全体として、本研究が明らかにした論点を、簡潔にまとめると以下のとおりとなる。

(1)中国の経済成長は着実に中国の対外行動に影響をあたえており、経済規模が大きくなるとともに、強硬的な失地回復的な行動と協調的行動の両者が生み出されている。

(2)強硬行動と協調行動のいずれが強くなるかは、指導者の戦略認識とともに国内政治に影響される。国内政治においては、ナショナリズムと軍の影響力がとりわけ重要である。

(3)東アジアの地域協力の枠組みは成長しており、中国はこの枠組みに拘束されるとともに影響もあたえている。限定的ではあるが、ASEAN+中国、ASEAN+3、東アジアサミットは、中国を協調行動に促す機能を持っている。

(4)中国に協調的行動をとることを促す要因は数多いが、これだけやればよいという決定的なものはない。経済相互依存の深化、安全保障の安定、中国を取り込んださらなる国際的制度化などを着実に組み合わせる必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計24件)

田中明彦,「世界システムの変化と民主主義」,『学術の動向』,査読無,20,2015,66-72.

益尾知佐子,「<書評論文>中国と国際関係論 中国の台頭がもたらす課題」,『国際政治』,査読有,180,2015,136-145.

平岩俊司,「金正恩の北朝鮮」の行動論理を読み解く」,『中央公論』,査読無,第129年第10号1571号,2014,78-85.

毛利亜樹,「習近平中国で語られる近代戦争--日清戦争、二つの世界大戦、抗日戦争と日本をめぐる言説」,『アジア研究』,査読無,第60巻第4号,2014,40-50.

松田康博,「日本的対華戦略 面向穩定的日中関係」,『中国太平洋論壇』,査読無,2013,1-9.

大庭三枝,「日・ASEAN40周年の課題:「対等な協力者」の関係構築に向けて」,

『外交』,査読無,2013,Vol.22,108-113.

大庭三枝,「協力関係の重要性高まる:日ASEANは40周年」,『改革者』,査読無,2013年11月号,2013,18-21.

毛利亜樹,「書評 Jeffery A. Bader, Obama and China's Rise: An Insider's Account of America's Asia Policy」,『国際安全保障』,査読有,第41巻1号,2013,107-111.

毛利亜樹,「書評 佐藤考一著 勁草書房『中国脅威論』とASEAN諸国」,『中国研究月報』,査読有,第68巻第2号(792号),2013,38-40.

田中明彦,「世界の中の日本-日本の目指す国際協力-」,『立教ビジネスレビュー』,査読無,Vol.6,2013,2-15.

田中明彦,「アフリカ 日本外交についての課題」,『外交』,査読無,Vol.19,2013,10-16.

田中明彦,「「仕切り直し」で東アジア安定を」,『読売クオーターリー』,査読無,冬号,2013,50-55.

田中明彦,「世界の中の日本 日本の目指す国際協力」,『J2TOP』,査読無,2月号,2013,27-29.

浅野亮,「『グレー・ゾーン』の中の日中関係:威嚇と抑止の中の安定追求」,『防衛戦略研究会議論文集』,冬号,査読有,2013,47-64.

平岩俊司,「北朝鮮・金正恩体制の『遺訓政治』と今後の展望」,『外交』,査読無,Vol.18,2013,108-113.

松田康博,「台湾をめぐる米中関係の変動要因とは何か?」,『東亜』,査読無,No.549,2013,92-100.

Chisako T. MASUO, "Governing a Troubled Relationship: Can the Field of Fisheries Breed Sino-Japanese Cooperation?", Japanese Journal of Political Science, 査読有, Vol.14, 2013, 51-72.

林載桓,「1969年危機」再考 毛沢東、軍、米中接近」,『青山政経論集』,査読無,89,2013,153-170.

毛利亜樹,「海洋へ向かう中国 多元化のなかの統制」,『東亜』,査読無,552,2013,30-38.

田中明彦,「21世紀の世界システムと日本のODA」,『国際問題』,査読無,第616号,2012,1-5.

①浅野亮,「米中関係:『フレーミング』、戦略文化、欧州の教訓」,『アメリカ研究(同志社大学アメリカ研究所)』,査読無,19,2012,5-16.

②Yasuhiro MATSUDA, "Engagement and Hedging: Japan's Strategy toward China", SAIS Review, 査読有, vol. XXXII, 2012, 109-119.

③松田康博,「台湾における憲政の展開過程概論 独裁か民主か? 中華民国か台湾か?」,『現代中国研究』,査読無,第31号,

2012, 42-55.

②林載桓,「文化大革命と人民解放軍 軍部統治の形成と林彪、林彪事件」,『青山政経論集』,査読無,88,2012,207-234.

〔学会発表〕(計30件)

Chisako T. MASUO, Extending Domestic Governance over the Seas: China's Reinforcement of the State Oceanic Administration, Symposium: China's Military Development and the U.S.-Japan Alliance, March 20 2015, Carnegie Endowment for International Peace (CEIP), Washington D.C. (U.S.A.).

Aki S. MORI, Japan-China relations in East China Sea: The Security Dilemma that Emerged from UNCLOS, Changing Threat Perception, and Historical Understandings, Guest lecturer, International Relations of East Asia (Spring 2015), Dr. Robert Sutter, March 2 2015, Washington University, Washington D.C. (U.S.A.).

Chisako T. MASUO, Economic Development and Regional Order, The International Studies Association (ISA) Global South Caucus, January 10 2015, Singapore Management University, (Singapore).

Mie OBA, The Developing Multi-Layered Regional Economic Architecture, Regional Architecture and Framework for Cooperation in the Asia-Pacific, January 9 2015, Orchard Hotel Singapore, (Singapore).

Aki MORI, Chinese Cultural Diplomacy towards ASEAN countries: An Analysis of Bureaucratic process, Mid-term Presentation Meeting for the Chinese Cultural Diplomacy toward ASEAN Countries, December 23 2014, Chulalongkorn University, Bangkok (Thailand).

浅野亮,「中国の対外広報政策とその安全保障上の意義」,国際安全保障学会,2014年12月6日,国土館大学(東京都・世田谷区).

Mie OBA, Political Implication of constructing regional economic zones in East Asia, The 10th Japan-Singapore Symposium, November 21 2014, Orchard Hotel Singapore, (Singapore).

Chisako T. MASUO, Japan's Anxiety about China and its Implications on the Indian Ocean, International Symposium: China-India Competitions and Indian Ocean Regional Security, November 20 2014, National Chung Hsing University, Taichung (Taiwan).

田中明彦,「【共通論題】世界戦争100年、地域紛争・戦争と国際政治 比較国際政治の視点から」,2014年11月15日,福岡国際会議場(福岡県・福岡市).

毛利亜樹,「習近平中国で語られる近代戦争の『教訓』 日清戦争、第一次世界大戦、抗日戦争」,アジア政経学会 東日本大会共通論題「東アジアの平和構築:日本と中国の安全保障」,2014年10月18日,防衛大学校(神奈川県・横須賀市).

Yasuhiro MATSUDA, Japanese Perspectives on China, Taiwan, and Cross-Strait Relations, Center for Strategic & International Studies (CSIS), September 15 2014, CSIS, Washington D.C.(U.S.A.).

Mie OBA, The Tppand RCEP: Competing or complementary initiatives to create economic zones?, The 8th International Conference on East Asian Studies, September 12 2014, Liaoning University, Shenyang (China).

松田康博,「蒋介石の『大陸反攻』政策と冷戦期の東アジア国際秩序」,アジア政経学会,2014年5月31日,慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(神奈川県・藤沢市).

Aki MORI, The CCP Leadership politics and China's policy towards Japan, Public event on the Changing Domestic Drivers of Chinese Foreign Policy, The German Marshall Fund, March 14 2014, Washington D.C. (U.S.A.).

Akihiko TANAKA, Keynote Address, U.S.- Japan Development Summit, Center for Strategies & International Studies, February 12 2014, Washington D.C. (U.S.A.).

毛利亜樹,「中国の強制外交一考察」,国際安全保障学会,2013年12月7日,関西学院大学(兵庫県・西宮市).

松田康博,「日本の国家安全保障会議(NSC)はどうあるべきか?」,日本防衛学会平成25年秋季研究大会・共通論大会,2013年11月30日,防衛大学校(神奈川県・横須賀市).

林載桓,「都市、リスク、軍隊:中国人民解放軍の役割拡大」,アジア政経学会西日本大会,2013年11月9日,大阪市立大学(大阪府・大阪市).

Chisako T. MASUO,「日中戦略的互惠関係の現段階」,『「新型大国関係と東亜国際秩序」国際学術研討会』(中国社会科学院亚太与全球战略研究院主催),2013年9月14日,Beijing 中国社会科学院(China).

Akihiko TANAKA, India-Japan Relationship in Global Trend, Jawaharlal Nehru University, June 18 2013, Delhi (India).

②Akihiko TANAKA, Re-Emerging the

ASEAN-Japan Partnership (Luncheon Talk 2) Evolving ASEAN-JAPAN-Relation New Dimension of ASEAN-JAPAN Partnership, The 27th Asia-Pacific Roundtable, June 5 2013, Kuala Lumpur (Malaysia)

②益尾 知佐子, 「論中国政府關於魚釣島主張の発展過程: 政府宣伝與民族主義の高張」, 第三回日台亜洲論壇, 2013年5月31日, 台湾大学, 台北市(台湾).

③Mie OBA, The New Japan-ASEAN Partnership: Challenges in the transformation of regional context in East Asia, GRIPS-ISEAS Joint Workshop 2012, ASEAN Japan Research Project, National Graduate Institute for Policy Studies, April 4 2013, The Institute of Southeast Asian Studies (ISEAS), (Singapore).

④Chisako T. MASUO, Competing to Cooperate: Roles of Regional Governments in Chinese Approach to Regionalism, TB53 (Panel), Economic and Security relations and their Domestic Sources in the Asia-Pacific, April 4 2013, Hilton Hotel, San Francisco(U.S.A.).

⑤浅野亮, 「『中国の台頭』と日本の海洋安全保障」, 東京大学政策ビジョン研究センター・公共政策大学院海洋政策教育研究ユニット(共催), 2013年2月25日, 国際文化会館(東京都・港区).

⑥益尾知佐子, 「日本の安全保障政策における中国 40年間の变化と今後の方向性」, 日本国際政治学会 2012年度全国大会, 2012年10月21日, 名古屋国際会議場(愛知県・名古屋市).

⑦林載桓, 「中国の政軍関係再考 党、軍、社会」, 日本国際政治学会 2012年度全国大会, 2012年10月19日, 名古屋国際会議場(愛知県・名古屋市).

⑧毛利亜樹, 「人民解放軍の立法活動 政軍関係一試論」, 日本国際政治学会 2012年度全国大会, 2012年10月19日, 名古屋国際会議場(愛知県・名古屋市).

⑨毛利亜樹, 「変動する海洋秩序における中国の安全保障 航行の自由を中心に」, アジア政経学会 2012年度全国大会分科会, 2012年10月14日, 関西学院大学(兵庫県・西宮市).

⑩Chisako T. MASUO, 「Governing a Troubled Relationship: Management of the East China Sea」, Conference on Japan-China Relations (hosted by Niigata Prefectural University), May 31 2012, University of Tokyo, Bunkyo-ku, Tokyo.

〔図書〕(計32件)

益尾知佐子, 「序章第4節「対外政策決定・執行メカニズム」, 第4章「反ソ統一戦線から『独立自主の対外政策 [益尾知佐子・趙宏偉・青山瑠妙・三船恵美]』へ(1969年～

1982年)」, 第7章「大国化への希望と不安」, 『中国外交史』, 東京大学出版会, 2015, 印刷中.

Akihiko TANAKA, Toward a Theory of Human Security, JICA Research Institute, 2015, 23.

平岩俊司, 「核ミサイル問題と中朝関係」, 『日本の安全保障第5巻チャイナ・リスク』, 岩波書店, 2015, 322(147-173).

益尾知佐子, 「第1章「東アジアの安全保障環境」」, 『シリーズ日本の安全保障第5巻チャイナ・リスク』, 岩波書店, 2015, 322(19-51).

林載桓, 「都市、リスク、軍隊: リスク社会における中国人民解放軍の役割拡大」, 『中国の都市化: 拡張、不安定と管理メカニズム』, アジア経済研究所, 2015, 170(154-170).

田中明彦, 「「民間外交」の役割とは何か」, 『言論外交 誰が東アジアの危機を解決するのか』, 日中出版, 2014, 256(115-118).

浅野亮, 「『グレー・ゾーン』の中の日中関係: 威嚇と抑止のなかの安定」, 『日本をめぐる安全保障 これから10年のパワー・シフト: その戦略環境を探る』, 亜紀書房, 2014, 288(98-132).

松田康博, 「日台関係の新展開 東アジアの安全保障への影響」, 『2014 亜洲新情勢』, 翰廬図書出版有限公司, 2014, 348(95-121).

Yasuhiro MATSUDA, "How to Understand China's Assertiveness since 2009: Hypotheses and Policy Implications", Strategic Japan: New Approaches to Foreign Policy and the U.S.-Japan Alliance, Center for Strategic & Intl Studies, 2014, 143(7-33).

大庭三枝, 『重層的な地域としてのアジア』, 有斐閣, 2014, 343.

林載桓, 『人民解放軍と中国政治: 文化大革命から鄧小平へ』, 名古屋大学出版会, 2014, 247.

浅野亮, 「台頭する中国とASEAN: 東アジア秩序の変容とメカニズム」, 『「米中対峙」時代のASEAN: 共同体への深化と対外関与の増大』, 明石書店, 2014, 288(45-70).

平岩俊司, 『北朝鮮の法秩序-その生成と変容 [編著藤井新著、平岩俊司・鐸木昌之・坂井隆・磯崎淳仁編]』, 世織出版, 2013, 261

松田康博, 「第4章中国<台湾>」, 『アジアの安全保障 2013 2014 昆明の日米中韓、緊迫の尖閣、南シナ海 [平和・安全保障研究所編集]』, 朝雲新聞社, 2013, 260(151-152).

Mie OBA, "The New Japan-ASEAN Partnership: Challenges in the Transformation of the Regional Context in East Asia", Japan-ASEAN Relations, Institute of Southeast Asian Studies, 2013, 294(55-72).

毛利亜樹, 「「伝統」と軍事現代化の狭間

草創期の人民解放軍海軍 1950～1960 年)」、
『日米関係史研究の最前線 [柴山太編]』、
関西学院大学出版会,2013,350(272-306)。
田中明彦,「安全保障 人間・国家・国際
社会」、『日本の外交第 5 巻 対外政策 課題編』、
岩波書店,2013,319(47-70)。
浅野亮,『近現代中国政治史 [浅野亮、
川井悟(共編)]』、ミネルヴァ書房,2013,423。
浅野亮,『肥大化する中国軍 [江口博保、
吉田暁路、浅野亮]』、晃洋書房,2013,220。
平岩俊司,『北朝鮮は何を考えているのか-
金体制の論理を読み解く』、NHK 出版,2013,
261。
②①平岩俊司,『北朝鮮-変貌を続ける独裁国
家』、中公新書,2013,242。
②②松田康博,『台湾民主化下の兩岸関係與
台日関係』、国立政治大学当代日本研究
中心,2013,219。
②③松田康博,「中国と台湾の『共生』は可能
か?」、『東アジア分断国家 中台・南北朝
鮮の共生は可能か』、原書房,2013,
235(27-57)。
②④松田康博,「蒋介石と『大陸反攻』 - 1960
年代の対共産党軍事闘争の展開と終焉」、
『蒋介石研究 - 政治・戦争・日本 - 』、東
方書店,2013,564(337-361)。
②⑤「大庭三枝,「アジア太平洋地域主義と
日本」、『日本の外交第 2 巻 外交史 戦後編』、
岩波書店,2013,320(169-192)。
②⑥益尾知佐子,「第 2 章「海からみる中韓・
中朝関係 黄海の中国漁業問題を中心に」、
『中国の対韓半島政策 [中居良文、
益尾 知佐子、渡辺紫乃、李正勲、村主道美、
中居良文編著]』、
御茶の水書房,2013,160(35-65)。
②⑦平岩俊司,「北朝鮮問題をめぐる日韓
協力」、『日韓新時代と共生複合ネット
ワーク』、慶應義塾大学出版会,2012,
227(95-120)。
②⑧Yasuhiro MATSUDA, "Understanding
Japan's Strategy toward China",China's
Domestic Politics and Foreign Policies and
Major Countries' Strategies toward China,
Seoul,Korea Institute for National
Unification (KINU),2012,543(361-391)。
②⑨松田康博,「中国対台政策的戦略調整
胡錦濤的『交往與避險』政策如何被繼承?
」、『中共「十八大」菁英甄補 人事、政策
與挑戰』、INK 印刻文学生活雜誌出版有限公
司,2012,288(271-288)。
③⑩松田康博,「第 7 章馬英九政権下の米台関
係」、『馬英九再選 2012 年台湾總統選挙の
結果とその影響』、日本貿易振興機構アジ
ア経済研究所,2012,131(109-123)。
③⑪Mie OBA, "Northeast Asia After the
Global Financial Crisis: Power Shift,
Competition, and Cooperation in the Global
and Regional Arenas",
The Economic-Security Nexus in Northeast
Asia,Routledge,2012,240(110-128)。

③⑫益尾知佐子,「11-3 章「二国間実務協力と
東アジア地域協力の進展(1999-2000)」』、『日
中関係史 1972-2012 政治 [高原明生・服部龍
二編]』、東京大学出版会,2012,
510(343-370)。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

データベース「世界と日本」

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 明彦(TANAKA,Akihiko)

東京大学・東洋文化研究所・委嘱教授

研究者番号: 30163497

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

浅野 亮(ASANO,Ryo)

同志社大学・法学部・教授

研究者番号: 10212490

平岩 俊司(HIRAIWA,Shunji)

関西学院大学・国際学部・教授

研究者番号: 10248792

松田 康博(MATSUDA,Yasuhiro)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号: 50511482

大庭 三枝(OBA,Mie)

東京理科大学・工学部・教授

研究者番号: 70313210

益尾 知佐子(MASUO,Chisako)

九州大学大学院・比較社会文化研究院

・准教授

研究者番号: 90465386

林 載桓(LIM,Jaehwan)

青山学院大学・国際政治経済学部・准教授

研究者番号: 80615237

毛利 亜樹(MORI,Aki)

筑波大学・人文社会系・助教

研究者番号: 00580755